

米国フロリダ大学 カンキツグリーニング病対策でメッシュバッグが有効

[FreshPlaza](#) 2024年8月23日

フロリダ大学の研究 メッシュバッグがカンキツグリーニング病から柑橘類を保護し健康を改善する可能性も

高速道路沿いの丘に白い覆いを掛けられた小さな木を見たことがあるかも知れない。それらの覆いはミカンキジラミ、ひいてはカンキツグリーニング病から柑橘類を保護している。フロリダ大学の新しい研究によると、個別の保護カバー（IPC）の下で育てられた果樹は、カバーを取り除いた後も数年間よく育つ。

生産者は通常2〜3年後にIPCを果樹から取り除く。果樹はその後、致命的なカンキツグリーニング病を感染させる可能性があるミカンキジラミに曝される。しかし、この研究は、果樹が引き続き健全であることを示した。

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)の園芸学の准教授であるフェルナンド・アルフェレス氏は、「IPCを取り除いてから3年間果樹を追跡したところ、果樹は感染しているにもかかわらず、果実の収量と品質に明らかな改善が見られた。カバーが取り除かれた後、時間が経過すると果樹が感染するため果実の品質が低下するが、それでもカバーの無い果樹の果実よりも品質が優れていることは言及する価値がある」と話す。この場合の高品質は、果実の糖度が高い(糖分量の測定値が大きい)ことを意味する。



アルフェレス氏とその同僚達は、一度IPCによって保護された果樹は、植栽後30カ月間、より高品質な果実を生産することも発見した。果実が非常に高品質であるため、生産者は植えてから2年半後には経済的な利益を得ることができる。同研究所の一部であるフロリダ州南西部研究教育センターの教員であるアルフェレス氏は、「保護なしで果樹を植えた場合は、こうはならない」と述べた。

これには2つの理由がある。まず、IPCによって保護されていない果樹が、植栽から2年半後に果実を実らせる可能性は非常に低いと同氏は言う。さらに、実をつけても2年以上感染しているため、品質が悪くなる。

アルフェレス氏がIPCをテストして、それが機能することを示すしっかりとした科学的データを提供した後、約1千人の柑橘類生産者が7年間、IPCを使用して果樹からミカンキジラミを遠ざけてきた。これらの生産者は、フロリダ州南西部及び中部の柑橘類生産者のかなりの部分を代表していると同氏は言う。

過去20年間にわたり、フロリダ州の柑橘類生産者達は、黄龍病(HLB)としても知られるカンキツグリーニング病の解決策を探り求めてきた。この病害は同州の柑橘類に多くの被害を与えたが、UF/IFASの科学者達は、果樹産業を存続させ、健全に保つために多様な方法を試みている。現在のところ、IPCを使用することがこの病害から若い果樹を守る最善の方法である。

出典: blogs.ifas.ufl.edu